



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）・ワシントン補習授業校を経て、現職。

悩みの社会と子どもたち

日本では、最近、子どもに関する悲しいニュースが相次いでいます。子どもがすくすくと育つ環境はなくなりつつあるのでしょうか。実は、最近の学校の様子からも心配になることがあるのです。

◆ 中学生と行事

文化祭、運動会、合唱コンクールなど、中学校にはみんなで作り上げる行事がたくさんあります。小学校にも学校行事はありますが、大人がかなりの部分で直接具体的な指導をしなければなりません。しかし、中学生になると、計画から反省までかなりの部分が自分たちの力でできるようになります。意見の違いを調整すること、話し合いながら新しいアイデアを生み出していくこと、それぞれが自分の得意なことやできることを考えて力を発揮すること、他の人の気持ちや立場も思いやりながら仕事を進めていくこと、困難な問題の解決策を一緒に考えること、元気の出ない仲間を励ますこと、互いに仕事を認め合

い感謝する気持ちを持つことなど、行事をとおして学べることは数え切れないほどあります。そして、行事を成功させたときの達成感、それぞれの生徒の大きな自信につながり、友だちへの信頼感や連帯感を増します。こうして、次は、より難しい課題にも取り組むことができるようになります。うまくいかなかったときでさえ、冷静に経過を振り返り、失敗の原因を考えることで、次につながる教訓を得ることができます。行事の中で子どもたちを育てていくことは、日本の学校の大切な仕事の一つになっていると言ってよいでしょう。

行事に取り組む時間は、ほとんどの中学生たちにとって、充実した楽しい時間であるはずなのですが、これを大きな負担に感じる生徒たちもいます。自分の考えに固執して他の人の意見に耳を傾けることができない、自分の意見が通らないとやる気を失ってしまう、小さなさかいを解決できず活動が止まってしまう、自分の都合と友だちの都合を付き合わせて調整することができない、自分の役割を自覚して責任を持って動くことができないなど、社会性が身につけていない中学生が目につくようになってきました。これについて、ある生徒は、「ぼくは、兄弟もいないし、一人でゲームなどをして遊ぶことが多く、受験勉強も忙しかったので、みんなで一緒に何かをやることに慣れていないのです。」と言っていました。この子の言うとおり、以前は兄弟の中で、あるいは地域の中でいつのまにか身に付いていた力を育てる場が、今は学校以外にはなくなってきたのかもしれません。

◆ 一人ひとりの悩み

学校生活がうまくいかない中学生・高校生も少なくありません。不登校の生徒、登校しても教室に行けない「保健室登校」の生徒をどのように育てていくかも、大きな課題です。心の悩みが、暴力行為、盗みなどの形で現れることもあります。薬物依存などの問題に結びつくことも心配で



文化祭のステージ